

KSKQ バオバブネットワーク通信

VOL26

新型コロナウイルスに負けず
新しい「絆」を創造
しましょう！！



バオバブ福祉会で働いてみませんか！

正規職員若干名の募集です！年末年始でも採用あり！！

勤務地：えるで（松原市田井城）、第2えるで・ホーム空（松原市南新町）※入職後、配属が決まります。

職種：生活支援員

内容：障がいのある利用者の活動、作業、生活支援。身体介護含む

資格：要自動車普通免許 ☆無資格、未経験者OK、男性歓迎 ※介護系有資格者優遇

時間：日勤：8:30～17:30（うち休憩60分）

夜勤：16:00～翌9:30（休憩3時間）

宿直：8:30～翌9:30（22:00～翌6:00は休憩）

給与：基本給：182,000円（高校新卒で入職の場合）～

※法人給与規定に基づく。給与幅は年齢、経験等による。

手当：・介護職員処遇改善手当 5,000円/月

※その他、所有資格、勤続年数、評価に基づき年度末に支給。平均約20万円。

・別途ホームや金宿直勤務手当支給（1回5,000円）

・その他諸手当有（扶養手当など）

賞与：あり（法人の運営状況による）※2019年度実績2.5ヶ月 年間2回（夏・冬）

休日：土日祝、お盆、年末年始（行事や休日開所による出勤有）※年間105日

待遇：昇給有、交通費規定内支給、食費補助有、試用期間3ヶ月有（同条件）、社会保険完備（I/Vは勤務状況による）、退職金制度有

応募：まずはお電話の上、履歴書（写貼）をご持参ください。

社会福祉法人バオバブ福祉会

松原市南新町3-1-14（第2えるで）

☎072-349-8611 担当：房本、森井



パート職員も随時募集中！！

朝・夕、土日の短時間など、ご希望の
時間帯、働き方をお気軽にご相談ください。

ともに地域で いきいきと生きることの実現を



えるで



笑顔いっぱいのメンバーさん! (*^▽^*)

自粛期間中でも、メンバーが笑顔になれる活動に取り組んでいます



季節行事&リフレッシュ

「夏」と言えば・・・すいか割り!

恒例の「すいか割り」で、力いっぱい棒を振り下ろし、協力してすいかを割っていました。

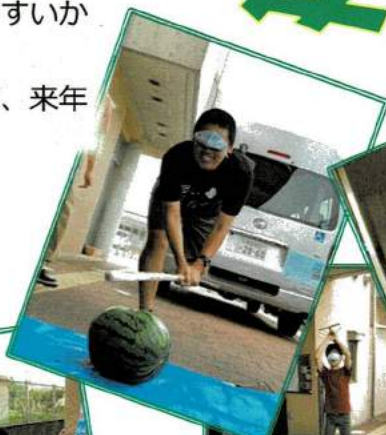
今年は敷地内で行いましたが、来年は海辺でやりたいですね。

夏

恒例! すいか割り



あれ? 目隠しは?



おいしい!!!

※みんなで美味しくいただきました



公園へ Go!



みんな、いい笑顔!!

ちょっと息抜き(*'3')

リフレッシュを兼ねて、「太子なごみの広場」まで行ってきました。

メンバーの気分転換にもなり、元気な笑顔が見られました。



季節行事&郊外学習

海までドライブ♪

「堺浜自然再生ふれあいビーチ」まで
行ってきました。

少し肌寒かったですが、身近な自然に
触れ、普段味わえない楽しい時間を過
ごされました。

秋

ビーチへ Go!



ハロウィンパーティー

秋の恒例「ハロウィンパーティー」🎃

作ったお面をかぶり、ちょっとした仮
想パーティーになりました。

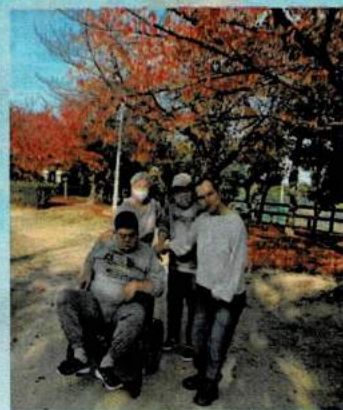
チキンやポテトなど豪華な食事にな
り、メンバー也大満足でした!





第2えるで ございま〜す!!

こんにちは、第2えるです。天美西公園に行きました。久しぶりの外出でみんな大はしゃぎ!!お天気も良く、暖かい日だったので、たくさん歩きました。秋の探索をすると、どんぐりや、真っ赤な落ち葉などを見つけて、秋を肌で感じた1日となりました。



三密に気をつけて様々な楽しい取り組みを今後していきます。
コロナに負けるな!!

第2えるで Online

～ともに地域で生きることをめざして～ 社会福祉法人パオバブ福祉会～



10

月号



10月の開所日にハロウィンパーティーを行いました♪
創作活動では、かぼちゃの帽子を作り、みんなで写真撮影をしました♪
お昼ご飯には、ハロウィン風にかざり付けをして、おいしく頂きました😊
とっても楽しい、1日になりました☆シ



みなさまありがとうございます

パオバブ福祉会後援会のみなさまから、
アルミ缶潰しの機械「カバちゃんS-7A」を
いただきました。
大切に使用させていただきます。

2020年度4月～11月で、224,290
円アルミ缶売り上げがありました。
この納品額があったのも地域の方々の
御協力あっての事で、第2えるでメンバ
ー、スタッフ共々感謝しております。こ
れからもリサイクル活動の御協力のほ
ど、よろしくお願いいたします。



新スタッフ紹介



かわもと ひろき
河本 宏紀

だい
(第2えるで)

メンバーさんが、毎日楽しいと思い、毎日えるでに来たい、そう思えるような場所に行きたいと思っています。メンバーさんの笑顔が絶えない「第2えるで」「ホーム」を目指して、私なりにがんばりたいと思います。



おくの けいこ
奥野 恵子

ほし
(ひとつ星)

ホームひとつ星の奥野恵子です。
月曜日と火曜日は東風の遅出も担当しています。

よろしくお願いします。



うえの としあき
上野 俊明

かぜ
(ホーム風)

(えるで)

バオバブ福祉会で生活支援の仕事の中で、人に対してのふれあいを大切にして、がんばります。



さの だいすけ
佐野 大輔

かぜ
(ホーム風)

初めまして、佐野と申します。えるでで働くのは数年ぶりですが、精一杯頑張りますので、宜しくお願いします。

よろしくお願いします

法人本部コ－サ－

8月30日(月)、第87回理事会(緊急)が理事・監事出席で開催されました。

1. 新型コロナ感染症に対する緊急対策について

－法人休業措置について－ ー具体的な感染防止策について－

2. コロナ基金の活用について

－基金の現状について－ ー緊急支出状況について ー今後の活用計画見込み活用原則の確認ー
主な2点の議題について、議論され承認されました。

法人本部より、参考資料「松原市長への要望書」”障害のある人のいのち・健康・くらしを守るために”を使いながら、以下の説明と提案がありました。

松原市長 澤井 宏文 様

2020年8月 吉日

社会福祉法人パオバブ福祉会
パオバブファミリー
代 表 義川 登志子

障害のある人のいのち・健康・くらしを守るために
新型コロナウイルスの感染が再び各地で広がり、松原市内の介護施設・障害者施設でもクラスターが発生しています。感染拡大の要因の1つにPCR検査が受けにくいことや、医療へのアクセスの困難さが指摘されています。

障害のある人の中には呼吸器の疾患、腎臓病、糖尿病、また、難病、生きるために常に人の支えを必要とする人たち、日常から医療的ケアを受けている人たちがいます。

障害のある人の多くは感染によっていのちにかかわる危険性が高く、現在は危機的状況と言えます。WHOでも障害のある人が新型コロナウイルスの影響を大きく受けやすいことを指摘し、障害のある人への追加の配慮を求めています。

また、いのちの選別が行われることへの懸念があります。海外では感染が拡大し、医療崩壊する中で、高齢者や障害者には人工呼吸器を装着しないという動きがあると報道されています。いのちの選別は決して行われてはなりません。二度と優生思想、優生政策の広がりを許してはなりません。

障害者の保護者として、障害のある人のいのちと健康・くらしを守るために、以下のことを緊急に求めます。

記

1) 日中施設、グループホームで、障害のある人や支援者に感染の疑いが出た場合の早急な検査体制を

集団生活の場で感染の疑いがある人が出た場合は、一刻も早い検査が必要です。感染者を確定し、速やかに治療につなげることがクラスターの発生を防ぐことになります。検査体制を大きく見直し、必要な検査を速やかに受けられるようにしてください。

2) 障害のある人が感染した場合の速やかな入院を

障害のある人は、他の疾患を抱えていることが多く、治療の遅れはいのちの危機を招きます。障害特性を考慮した治療環境を整え、速やかに入院治療を受けられるようにしてください。

3) 障害のある人に感染者、感染の疑いが出た場合の他の入居者との交流を制限できる空間の用意を

日中施設、グループホームで感染者、感染疑いのある人が出た場合に、他の入居者とは別の場所で生活できるような場所を用意してください。また、柔軟に、公共施設の使用を認めて下さい。

4) 情報公開への配慮を

感染者が発生した事業所についてマスコミへの情報提供が行われていますが、日中施設やグループホームなどで感染者が出た場合など、障害者差別や偏見を助長することのないように留意し、その場所が特定されないなどの配慮を求めてください。

これまでの取り組みとして、8月24日付けで、松原市長に向けて要望書を提出を行った。等の報告をし、下記の説明と提案がおこなわれました。

1. 法人の休業措置について

1) 休業の基本原則

一人でも感染症がで場合、全事業所の業務を停止する。

2) 感染状況を判断して

メンバーや家族の状況を判断して、部分開所できる事業所は開所する。感染症の可能性のないメンバーについては部分開業の施設で受け入れる。

2. 具体的感染防止策について

1) 物と人の確保

感染防止に有効な機材については高額になっても購入して各事業所に常備する。
感染症を乗り切るために、支援員を増強する。

2) 対外行事の見直し

9月以降の対外行事(みんなの和等)については延期する。
10月予定している「一泊旅行」については、計画を大幅に見直し、または、状況により中止する。

3. コロナ基金の活用について

1) コロナ基金の現状報告

2) 基金よりの支出の原則について

①感染症対策物資、②「三密」を避ける対策、③メンバーの活動・健康維持につながる事に活用する。

3) メンバーの休養室及び分離できる空間の設定について

①「えるで」の和室をメンバーの休養・活動室に改造する。
②ホームで感染症が発生した場合に備えて、臨時ホームを開設するための建物(施設)を確保する。

4. 職員の処遇面について

1) 法人の給与規則にない「危険手当」を理事会専決で設定する。

①支給方法や金額の設定については、理事長専決とする。

②本年度法人収支に関わらず、期末手当については、昨年度の支給率(1, 5ヶ月)を保障する。

全ての案件が、事務局の提案通り全会一致で承認されました。

基金にご協力いただき、誠にありがとうございます

ございました。

ほぼ全額をコロナウィルス感染症
対策に使わせて頂きました。

11月30日、社会福祉法人バオバブ福祉会第88回理事会が開催され、下記の議案が提案されました。理事・監事の全員出席のもと、議論され承認されました。

1, 新型コロナウイルス感染諸対策について

① コロナ基金の会計決算について

② 大阪府新型コロナウイルス感染症緊急対策包括支援事業補助金交付申請について

2, 短期入所事業（ショート）陽開所申請について

3, 2021年度法人本部及び各事業所の体制について

4, バオバブ福祉会理事・評議員改選について

5, その他

このコーナーでは、1～3の議論について、みなさまにお知らせします。

事務局より、8月～11月までの法人のコロナ取り組みを報告を受けました。

今後の「第3次感染」への備えを確認し、11月4日策定された「感染対応の基本」が理事会でも承認されました。

「感染対応の基本」は、9月23日から2週間の休業措置のなかで派生してきた想定外の事態を考慮に入れて、法人の看護師チームが中心に全体で策定したマニュアルです。

今後、職員だけでなく、バオバブファミリー会、メンバー会議に諮り、内容のあるものにしていきたいと考えています

コロナウィルス感染症と戦いながらも、負のスパイラルにも立ち向かえるものとして「内容の充実」を図りたいとの方向性も理事会で了承されました。

※負のスパイラルとは

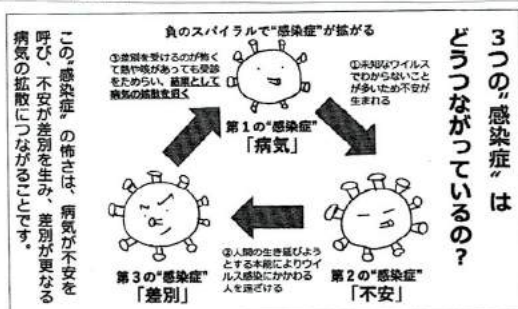


図1 負のスパイラル (「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」より) ©日本赤十字社

陽性者 および
疑似症患者への対応

※ 疑似症患者とは、発熱等、疑いのある症状がある者のことを指す

※ 以下、陽性者と疑似症患者をまとめて、「陽性者等」と表現する

※ 濃厚接触者もPCR検査の結果が出るまでは、同様の扱いとする

2020年11月4日

バオバブ福祉会 看護師チーム

バオバブ福祉会は、ファミリーやメンバーさんとともに
「負のスパイラル」を断ち切る活動も展開します!!

事務局より、コロナ基金の決算報告がありました。

11/30現在、基金提供者が207名、寄付金総額6,879,400円になったことの報告がありました。

コロナ基金による備品購入

2020.10.16現在

内訳	金額
マスク	229,904
レインポンチョ・レインウェア	30,175
使い捨て手袋・ごみ袋	8,105
ペダル式ごみ箱等	10,555
パルスオキシメーター	44,036
使い捨て手袋・シューズカバー等	62,338
ごみ箱一式	3,823
ペーパータオル 2箱	5,676
アームカバー	4,596
レインシューズカバー	7,920
フェイスシールド(入浴介助用)	1,882
ジアノチカラ・ハンドジェル等	7,112
カート(2台)	90,299
フェイスカバー冷感	21,472
ビニールシート	7,200
合板・木材カット代	789
つっぱりポール・突っ張り棒	25,012
ペーパータオル・使い捨て手袋	26,807
シエント購入	1,035,990
非接触型体温計・体温計	35,062
防護ガウン	28,590
アルコールスプレーボトル	9,244
体重計 2台	209,089
PC 5台×41,800	209,000
エアコン	111,848
パーテーション	162,965
フェースシールド・マウスシールド・センサー	51,160
折りたたみテーブル	78,980
使い捨て弁当箱・ハイター・スเปアキー	3,232
えるで3階和室改装	589,600
第1えるで・第2えるで交流費(7月開催)	52,946
オープンシェル・ラック・コードリール等	42,498
休所中 9月-10月使用(虹契約含む)	489,289
203号室 契約・家賃・光熱費等	252,994
虹 家賃・光熱費・日用品費等	117,891
陽 契約・家賃・倉庫契約	471,500
陽 改装工事代・電化製品	1,982,318
	6,521,897

支出は、①～③が大きく占めています。

①マスク・等の感染症対策物品購入費、②「密」を解消するために、施設改造及び送迎車の購入費、③臨時ホーム開設のための借り上げ費及び「えるで」改装工事費

また、③については、今後の維持費の捻出の工夫が求められることが指摘され、事務局から今後の「見通し」も報告されました。

今後の「見通し」について

③の中で、

今後も継続して維持管理費が必要なものは次の通りです。

I 臨時ホーム「虹」の賃料及び水光熱費

II 臨時ホーム「^{はる}陽」の賃料及び水光熱費

概算で、一月150,000円で、年間18,000,000円の維持費が必要となります。

現在、大阪府新型コロナウイルス感染症緊急対策包括支援事業補助金交付申請をあげています。

その交付金を「法人でプールして、維持管理にあてていきたい。」との説明があました。

その説明を受け、理事会から『大阪府新型コロナウイルス感染症緊急対策包括支援事業補助金交付申請』についての承認。今後の使途について承認を得ました。

また、臨時ホーム「^{はる}陽」についてはコロナ感染症が終息する時期に、ショートステイホーム（短期入所ホーム）として活用する事も提案されました。

松原市消防署の許可を待って、市福祉指導課に設置申請する事も提案され、理事全員一致で承認されました。

2021年度 法人の体制が 大きく変わります!!

4月 法人本部がグループホーム「東風」2階 (松原市南新町3-8-23)に移転します

提案理由

田井城に生活介護「えるで」、一津屋にホーム「ひとつ星」、及び南新町にホーム「風」「空」と生活介護「第2えるで」・相談事業所「いこな」「えるでヘルパーステーション」と大きく2カ所に分散している状況であり、加えて、登記上の法人本部が「えるで」にあることにより、各事業所間の調整連絡に手間取ってきました。

この体制のもと、コロナの緊急対応において全事業所一丸となって対応に当たる準備の遅れを生じさせたと考えています。

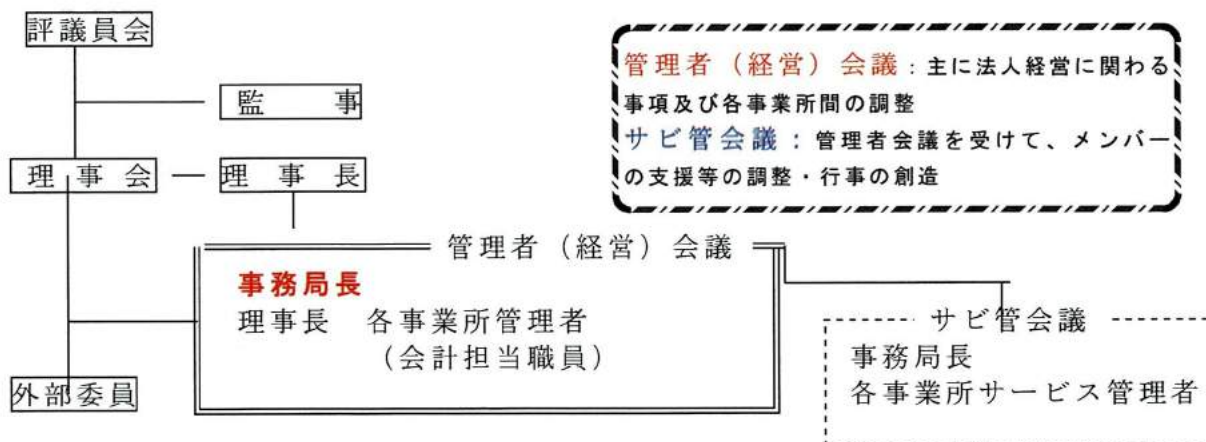
その改善のために、法人本部体制の確立と各事業所の体制の整備をすすめることが急務です。

この状況の解決のためには、根本的には法人本部の南新町移転が必要であると考えますが、法人本部の移転には法人定款の改正が必要であり、評議員会の承認事項であるために、次回の理事会・評議員会に提案していきたいと考えます。

当面できる改革を優先して、12月から取り組んでいきたいと考えます。

1. 法人事務局長選出と法人事務局体制確立及び法人経営（管理者会議）と事業所運営（サビ管会議）の分離する体制を確立する。
2. 各事業所の体制を整備し、法人の勤務歴が短くても力量のある職員を経営参画を積極的にすすめる体制を確立する。

1, について



2, について

管理者（経営）会議		サビ管会議	
・事務局長		事務局長が統括	
・えるで管理者	長谷川 薫	・えるでサビ管	丸尾知子
・第2えるで	石谷 健二	・第2えるでサビ管	久保みどり
・ホーム管理者	房本 晃（理事長兼務）	・ホームサビ管	比嘉明子・池田真季
・いこな管理者	森井 孝至	・いこな	藤元由香
・ヘルパー管理者	宇佐美 寿彦	・ヘルパーST	大林基史・春日久美子
	川端 秀一郎		

3月までの法人への連絡は「えるで」にお願いします!!

たくさんのご寄付、ありがとうございました。

寄附金合計 7,128,468円/211名

2020.12.14現在

氏名	氏名	氏名	氏名
土屋 敏明	山森 篤	小林 和子	瀧澤 公子
房本 ひろみ	床本 スミエ	林 和広	パオバブファミリー
寺内 勉	池本 武夫	永尾 廣幸	池本整骨院
三田 宜充	津田 仁	中庭 哲史	小路 幸三
松井 真由美	梅沢 隆志	山添 繁	幸 隆之
山本 純子	竹中 隆男	松村 公子	近藤 欽一
土屋 敏明	佐伯 ゆり子	大塚 潔	山崎 正一
花澤 光正	杉田 たまき	市橋 剛	田中 利明
里上 龍平	セブンイレブン 松原田井城店	上野 史雄	榎田 敏子
森 俊雄	橋本 由美	森口 己史	喜舎場 イサ子
北川 和子	本田 剛	吉川 年幸	大山 亜希子
上間 正彦	中島 智子	房本 朋也	島 善信
菅原 眞理	芝野 昌代	吉田 裕子	牧野 哲哉
森山 伸治	小路 君代	徳山 孝	山本 明日香
坂本 宏和	鎌田 昌禧	新里 京子	池上 英明
白樫 雅洋	美佐田 和之	山本 啓子	大西 亮一
平尾 貞之	長尾 由利	山本 博	前 茂宏
明石 一朗	菅野 謙二	西田 恒次	大畑 康夫
海堀 聰	猪俣 圭介	岡林 美紀	沖村 香織
北田 茂	池田 幸子	榊西山金物店	荒川 由美
徳田 喜代士	京井 節子	岡村 正毅(知栄子)	ぼぼろスクエア 所長 乙須直子
須川 芳二	木南 康昭	田中 繁	南野 芳江
石田 勝也	佐藤 春男	野崎 龍介	稲垣 久代
熱田 光子	和田 芳現	横田 真一	田中 正元
谷岡司法書士事務所 谷岡康男	楠本 良栄	植田 麗子	社会医療法人 阪南医療福祉センター
斎藤 薫	大廻 敏子	長畑 友貴	瀧澤 敏
玉岡明代	房本 卓也	姫野 春奈	北林 伸造
岡 陽子(修)	佐藤 実希	梶原 芳美	松野 剛史
藤本 幸子	津之下 麻衣子	河野 雅子	山本 博貞
井上 恵子	吉田 千晶	伊津 エミ子	海堀 公子
竹本 信夫	杉谷 美弥子	合同会社トミカル 代表社員 浦大介	西村 健
大江 進	谷口 眞	川淵 兼敏	田中 加奈子
南 光子	道野 真紀	岩橋 由理子	李 貴美
前崎 卓	是枝 英恵	江頭 直幸	山本 聖子
高橋 正人(啓子)	井上 雅彦	隅埜 千昌	松本 都
上杉 健二	寺内 勉	玉木 昇	大川 眞理
北本 正俊	中島 智子	明石 全弘	矢野 智史
橋本 幸一	高橋 正人	山口 道彦(昌子)	岡村 健一
金川 増美	山田 和寛	泉森 一喜	岩倉 紫帆
山岡 浩美	上野 史雄	新里 順一	中谷 真
義川 登志子	齋藤 宏美	中村 勝成	畠山 久子
房本 晃	安田 智昭	黒岡 一仁	易 寿也
高松 一仁(佳子)	豊永 雅雄	桑原 加代子	岸 精一
上田 孝子	檜本 直之	瀧見 忠和・葉子	安達 志朗
えるで応援隊	村田 昇	隅田 正樹	山本 壽夫
檜木 直之	望月 育朗・ミサ子・未生	榊木本デザイン設計室 木本圭二	寺内 勉
高橋 和男	小西 典子	坂井 龍	山上紙業株式会社
桑原 加代子	佐藤 博人	盛田 隆子	小橋 伸子
福西 洋美	三條場 進	星野 稔	佐伯 ゆり子
松本 博美	片岡 信行	古川 知子	上田第三町会
阪本敏彦(幸)	杉谷 美弥子	竹本 雅樹	
関 光雄	泉 富三男	李 貴美	
井上 雅彦	諸角 裕久	匿名希望	

後援会コーナー

後援会への入会ありがとうございます。

今年度は、12月 1日現在で、個人加入者が399名、団体加入が7件と、たくさんの方々が入会していただきました。誠にありがとうございます。

ボランティアの声

今年度は、コロナ禍の中、マスクの着用や、手指の消毒などの感染防止策をとりながら活動をしています。

えるでの日常活動に常時11名のボランティア（地域の方や退職された方）が参加し、空き缶集めなどの移動介助や昼食時の食事介助の他に、音楽体操や紙芝居、河内音頭に音楽活動、パソコンや絵本の読み聞かせ、折り紙工作などを通じてメンバーさんと関わっています。また、毎月2回の土曜日、午前10時から午後2時まで第2えるでで行われている日中一時支援事業で、季節に合った工作やゲーム、手打ちうどんづくりやお好み焼きなど昼食づくりとコラボした取り組みに参加しています。

Mさんとの関わり

H・M

一九七六年、Mさんが中学二年の時に担任をしたきっかけで、松原高校に入るためのMNS運動をしました。大阪狭山市に転勤したため、ご無沙汰していましたが、定年退職し、母の介護も終わったので、毎週木曜日に「えるで」に来て、Mさんの多くの友達との通信の手伝いをしています。

“えるでさん”との活動

M・T

木曜日の昼下がりに、“えるでさん”に通い始めて、もう三年半になります。私にできる事ならと、河内音頭や太鼓、その他みんなと好きな歌を歌ったり、体を動かしたり。初めはみんなが楽しんでくれているのを励みにやっていましたが、いつしか、自分の癒しにもなっている事実にも気がつきました。関わりの中で、悲しい別れや嬉しい出会いもありました。一人一人の個性に驚いたり、感心させられたりもしました。

月に一回は、第一えるでさんにも行かせてもらって、さらに発見することや驚きが多いです。

このコロナ禍の中で、少しでも憂うつがふつとんで、楽しい時間を分かち合えるように、がんばりたいなと思っています。

続けたい紙芝居

Y・T

今年、私は、白内障の手術をして、少しの間、紙芝居を休みました。不安や心配は、また紙芝居を読みたいという思いで乗り切れたように思います。来年、今まで二か月に一回だった紙芝居を月に一回にしたいと考えています。細くとも長く、私自身が一番楽しんで続けたいです。

繋がりを求めて

K・R

私は、Yさんに誘っていただいて紙芝居を始めました。人前で何かをするということが、それまでほとんどなかったので、最初は、戸惑いや緊張で声も上手く出せませんでした。でも、続けているうちに、紙芝居をすることが、皆さんの前で読むことが楽しくなってきました。拙い私の読み聞かせを、一生懸命に聞いてくれていて、今では、読んでほしいお話のリクエストもしてくれて、本当にうれしくて、続けていて良かったと思っています。

私は、自分の子どもたちに絵本を読んであげたことはありましたが、紙芝居を読んだのは、Yさんに誘っていただいた読み聞かせが初めてでした。同じ内容のお話しでも、絵本と紙芝居では違うということ、我が子に読むのと大勢の人に向かって読むのでは、全く違うということ、この読み聞かせの経験を通して知ることができました。

Mさん、ダンスとメールに夢中！

M・Y

週一、第二えるでMさんと一緒にパソコンで楽しんでいます。視線入力のパソコンとの当初の“格闘”（文字入力やお絵かき等）も一段落して、今はメールのやりとりが時男さんの一番の楽しみです。

Mさんは土日の休みに「カラダ表現ラボ」というNP0サークルの活動にはまって!! いや生きがいがかな！“青春”しています。（ぜひ一度、「カラダ表現ラボ」をネット検索して、Mさんが「ダンス」している様子を見てください。必見の価値あります）。このサークルのメンバーとのメールのやりとりをパソコンでしています。来年、時男さんは“還暦”、私は“古希”です。この出会いは面白い貴重な時間です

楽しい紙芝居

Y・D

僕の仕事が休みの時は、紙芝居に参加しています。それは、楽しいからです。



ボランティアの希望、問い合わせは、下記事務所までお願いします。

バオバブ福祉会後援会事務所

〒580-0023 松原市南新町3-8-23

事務局tel 072-332-0999

みんなで考えようコーナーNの21

コロナ感染症の広がりの中で、感染ハイリスクの人々（高齢者・基礎疾患保有者・障がい者）が「自粛」としようとする同調圧力により、実質「ロックダウン」させられています。しかし、感染はおさまる気配すら見えません。ネットで多くの老人介護施設・大規模な障がい者支援施設での「クラスター」の報道が流されます。

そのたびに、法人内に緊張が走り、対外行事中止に……。メンバーさんが落胆し、「次の機会を待ちましょう！！皆さんも病気にならないように『マスク』をつけましょう！！」と呼びかける、発熱があるたびに、断られることを覚悟して、診察可能な病院を探し回る……。このような場面を何回も繰り返してきたか？

考えてみれば、施設よりも私たちの分散した小規模な暮らしの方が感染危機ははるかに少ないはずだが、「感染情報」に右往左往してきたのが、3月から以降の法人全体の姿です。（ただし、メンバーは、一番健全でした。）

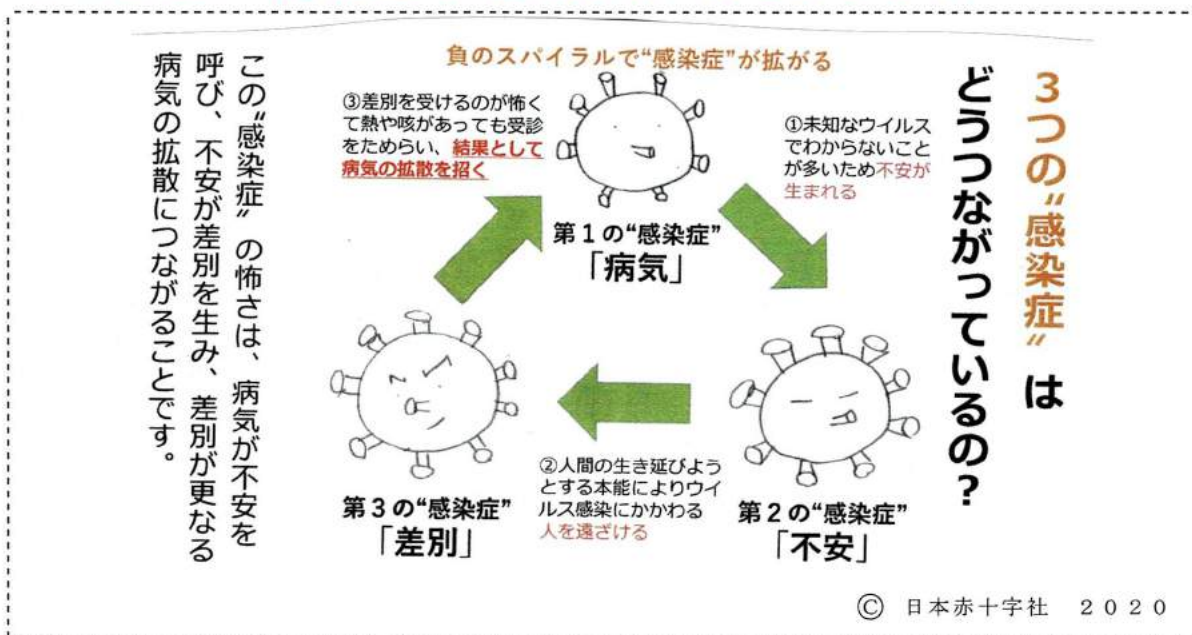
感染防止対策はきっちり遂行しながらも、来たるべき未来（コロナが収拾時期）をみんなで再度考えなければならないと思います。

今、私たちが社会から「分断される危機的状況に陥っていること。」の状況と脱出策を皆さんともに考えたいと思います。（文責F）

2020年3月26日、緊急事態宣言が発出されるまえに日本赤十字社から重要なメッセージが出されました。

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！一負のスパイラルを断ち切るためにー」の題する20ページの構成のメッセージです。

コロナの第3の“感染症”に感染していませんか！！



毎日私たちは様々な「媒体」から、新型コロナウイルスの「不安」をあおる報道を浴びつづけています。

「不安」は助長され、気づかずうちにあっていう間に「差別」は広がってしまいました。

感染ハイリスクの障がい者の周辺にいる私たちは、政府や社会の「コロナ対策」の情報に絶望を感じながらも、何もしないわけにいかず、メンバーの同意もなく、「行事の自粛」と「マスク」と「手洗い」を徹底を呼びかけています。

この姿こそ、第3の感染“差別”に感染

にしている「証し」かもしれません。

メンバーの生活から見れば感染の可能性は皆無であると気づいていながらも、「三密を避ける対策を徹底を呼びかける「むなしさ」。ソーシャルディスタンス（社会的距離）やソーシャルディスタンス（社会的距離の確保）」が、メンバーさんの社会からの「分断」を固定すること。

そのようなことに気づきながら、感染防止の取り組みのみを推奨している法人理事長である私などは、“第3のウイルス”の感染者の筆頭かもしれません。

差別という感染症からの脱出ために

今、感染症対策を徹底しながらも、感染防止がなされた来たるべき時期までに、第三の感染症から脱出しなければいけないと考えます。

その答えは、今まで私たちが主張してきた「インクルーシブな社会＝共生社会づくり」の理念からの発想です。

「ハイリスクである高齢者が生活する施設を守るために、色々な制限をつけることは正しい。」「ハイリスク者がリスクを避け、生活するのはあたりまえだ。」「生き続けるためには仕方がないではないですか！！」と医療従事者ではなく、政治家が語る。

このことに、私たちは疑問も持たずに、同調していいのでしょうか！！

新型コロナウイルスのハイリスクグループと呼ばれている層の人たちを、そもそもなぜ、施設という閉じ込められた空間に閉じ込められているのか？

その閉じ込められた空間は合理的にウイルスから守りやすいというが、一度ウイル

スの侵入を許せばクラスターを起こし多数の感染者を出していることは、世界中のクラスターを見れば明らかなことです。

大きな集団生活の施設を要塞のように守るよりも、分散した小規模な暮らしのほうが、集団感染のリスクは低い。もちろん、その状況において支援が必要な人たちに、どのように継続して生活のサポートを保証するか！ の議論が同時になされなければならない。

細切れの巡回訪問型の支援形態、ハイリスク者だけを一カ所集めてサービスを行う形態、どれもあたりまえのサービス風景そのものが、そもそも「分断」であり、感染を拡大させている原因でもあります。

私たちは、「メンバーの生活はひとつだ！！」を合い言葉に、細切れのサービス体制の見直しを図ってきたし、分断を促進する社会にたいして、インクルージョンや共生を主張してきました。

今こそ、私たちのめざす方向性に確信を持ち、コロナ収束の時期に再度声を上げなければと思います。

「個人の行動様式の変容」ではなく、「環境を整えること」から

現在、国や地方自治体から盛んに「新しい生活様式」が示されています。そもそも政治が個人の生活様式にどこまで口をはさめるかは別にして、そのほとんどが、「個人の行動様式の変容」のみに着目する主張であることに疑問を持たなければならないと思います。「WITHコロナ」をスローガンにした「経済を回しながら、感染対策を」（その象徴が「GOTO 〇〇」ですが・・・）の危うさにも、私たちなりの「主張」をぶつけなければならいと考えます。

「WITHコロナ」は、まず「環境を整えること」「環境を整える」ことが、第一歩だと考えます。

国際生活機能分類（ICF）で言われる「環境因子に着目する視点」のように、換えていかなければならない環境はたくさんあります。

効率化を追求する今の状況では、「密」

法人の相談機関に所属するメンバーの生活は、今極限状況に追い込まれています。

新しい生活様式を受け入れられず、「引きこもり」傾向が強まったメンバーが多くいます。コロナウイルスの感染におびえながら、引きこもっているメンバーの生活が、困窮を極めていきます。

日中・ホームのメンバーと共に、困窮から脱出の方法を見つけながら、負のスパイラルを断ち切っていきたいと思います。

共に考え、共に支え合い、国・自治体に働きかけていきたいと思います。

は解消されません。ユニバサル建物や店舗などをつくっていけば、密な空間は解消されるのではないのでしょうか？

「新しい生活様式」とは、障がい者が暮らしやすい環境づくりをおこなっていき、そのことを通じて個人の行動を変えていくことではないのでしょうか！！

感染症の流行には、社会的な要因を多く含むと言われています。感染のリスクは、貧富の差による不平等、経済格差、住宅環境、衛生状態、等大きく変わります。

コロナウイルスの感染でも変わりなく、貧富の差により感染リスクの差は厳然と生じています。

もともと、貧富の差が激しくなっている日本だからこそ、簡単に「コロナへの差別」広がってしまったし、貧富の差が「見えづらかった」状況から、感染リスクによりはっきりと「見える化」されたともいえます。

編集後記

○バオバブネットワーク通信VOL26をお届けします。

今号は8月～12月にかけての「えるで」「第二えるで」のメンバーの姿と第88回理事会報告を中心に編集しています。

○7月21日に通信VOL25号を発行してから、5ヶ月を過ぎました。

この間の出来事は、私たちの経験を遙かに超えたものでした(今も継続しています)。コロナ感染症という激震に今も晒されています。

法人としては、理事会・評議員会・ファミリー会や後援会・後援者と共に、コロナ危機突破支援金の募集をはじめとして、考えられる「対策」を取ってきました。(詳細は法人本部コーナーを参照ください。)

支援金は募集以来、短時間で600万円を超え、今も増え続けています。(要請にご協力ありがとうございます。呼びかけ人を代表して、改めて心から御礼申し上げます。)

感染症対策グッズ購入や「三密」を避ける対策として「臨時ホーム」の開設、「えるで」の施設改造、送迎車の新規導入等も試みてきました。

8月31日、全理事・監事出席の下、緊急理事会(第87回)を開催し、①新型コロナウイルス感染症に対する緊急対策、②コロナ基金の活用について、③阪南中央病院をはじめとする医療機関との連携強化を審議していただき、危機に備えてきたつもりでした。

9月中旬に発行した「理事長通信」には、次のような記述をしました。

9月中旬、日中やホーム関係者は全て元気で「いつも通りの生活」を送っています。もちろん、感染症対策のために地域の交流・イベント等中止・延期になっていますが、日常通りの活動を維持してきました。それでも、メンバーさんのストレスは高まっています。10月は、「自粛路線」から離れて、年間行事の目玉である「一泊旅行」を予定通り実施したいと考えていますが……。

○通信が発行されて直後、メンバーの感染が判明し、法人全体の施設・事業が2週間の休業に追い込まれました。

幸いにも、感染は拡がらず2週間で通常の体制の戻りました。この間に様々な経験をしました。

行政の冷たさ、地域医療と保健所の足並みの不統一、風評被害の広がり、「濃厚接触者」という言葉の一人歩き、感染者を特定したい人の「しつこさ」等、コロナの負の側面(社会の差別的な状況)を経験しました。

○危機的な状況を乗り越えることが出来た二つの原動力は、①メンバーを守るために職員一致して各業務にあたれたこと、②「何かが起こっているかもしれない!!」と感じながらも、いつも以上に「ふつうに」「自然に」接してくれた後援会関係者や地域の人の「笑顔の支え」だった、いえます。

○9月の貴重な経験をふまえ、35年間メンバーが今まで紡んできた「絆」を確信し、①一層の感染症対策強化すること、②「いこな」のみで繋がっている在宅のメンバー、行政・医療機関の対応に傷つき、「引きこもり」傾向が強まったメンバーに、特に寄り添いながら、「地域で生きつづけること」への信頼(新しい絆)を回復させてる活動を強めていく必要があります。

今後、一層のご支援・ご協力とご批判もよろしくお願いします。

(文責F)

一九九一年九月三日

第三種郵便物承認

毎月

(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

KSKQ (バオバブネットワーク通信VOL26) 2020年 12月 21日発行

定価1000円

編集人 社会福祉法人バオバブ福祉会 編集責任者 房本 晃

連絡先 〒580-0044 松原市田井城6丁目328番地2

でんわ072-332-0987 FAX072-331-8200

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

でんわ&FAX06-6763-3338